

行事予定 (2007年)

- 1月26日(金) 第1回常任・全国幹事会
- 3月16日(金) 第2回常任幹事会
- 3月17日(土) 第66回教育セミナー(近畿大学)「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」
- 4月21日(土) 第67回教育セミナー(慶応義塾大学)「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」
- 5月12日(土) 第4回GLM教育セミナー(都市センターホテル)
- 5月13日(日) 第68回教育セミナー(昭和大学)「精度管理・検査室management」
- 5月27日(日) 第69回教育セミナー(防衛医科大学校)「生化学・一般検査・微生物検査の実技講習」
- 6月1日(金) 第17回日本臨床検査専門
～2日(土) 医会春季大会(旭川グランドホテル)および第3回常任・第2回全国幹事会・第29回総会
- 6月22日(金) 第4回常任幹事会
- 7月20日(金) 第25回振興会セミナー(東京ガーデンパレス)
- 11月21日(水) 第5回常任幹事会・第3回
全国幹事会・第30回総会・
講演会(大阪市公会堂)
- 12月14日(金) 第6回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
常任理事 池田 斉

臨床検査の光と影

師走の忙しい時期を迎えましたが、全国の臨床検査医の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。

渉外委員会をお預かりして三年目となり、今年も例年のように7月21日(金)、東京ガーデンパレスで第24回日本臨床検査専門医会振興会セミナーが開催されました。

今回のテーマは「平成18年度診療報酬改訂」でした。関心の高いテーマだったせいか、多数の出席者があり活発な討論が行われました。臨床検査医学会から渡辺清明理事長、厚生労働省から福田祐典企画官、病院検査室の医師代表として虎の門病院検査部長の米山彰子先生、そして、検査試薬メーカーの代表としてデイドパーリングの松尾氏の四人の方からご講演をいただきました。今回の検査点数改定による影響、外来迅速検査加算の問題点など具体的な問題提起のほかに、医療経済全体の方向性が種々議論されて、大変有益なセミナーでした。

このところ長い間、検査の世界は「冬の時代」といわれております。医療にとって不可欠な臨床検査が、近年は医療費抑制政策のおおりに受け、また包括医療(DPC)導入の影響もあって、「病院経済のお荷物」のような扱いを受ける場面も、しばしば見うけられます。

このような状況をはね返すべく、この数年間、日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会、日本臨床検査振興協議会等の努力により、厚生労働省と検査業界との垣根がようやく低くなり、現場の意見が霞ヶ関に届きやすくなる環境が整いつつあります。また、数年後には国家的事業として、「メタボリックシンドローム」の予防、早期発見に取り組むことが報道されており、検査の世界は再び脚光を浴びるものと期待されております。

どのような時代になろうとも、臨床検査は医療にあっては、絶対不可欠な存在です。生き物にとっての空気と水のようなものです。ひとたび臨床検査が機能しなくなれば、すべての現代医療は即座に崩壊すると思われまます。

我々、検査に関わりそれを生業として社会に貢献する使命をもったプロ集団は、医療に対していつも新鮮な空気と水を提供し続けるため、今後も一致団結して頑張っってゆきたいと思ひます。

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 事務局だより、会員動向、第28回総会報告、平成19年度予算案
- p.3 講演会報告、来年度行事予定のお知らせ、平成18年度第五回常任・第三回全国幹事会議事録
- p.5 書評、僕の歩く道、
- p.6 会員の声；今年(2006年)の思い出、編集後記



冬の草花(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 大谷慎一(編集主幹)
〒228-8555 相模原市北里1-15-1 北里大学医学部臨床検査診断学医局内
TEL/FAX: 042-778-9519
E-mail: ohitani@med.kitasato-u.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2006年12月18日現在数688名、専門医525名

《新入会員》(敬称略)

金地 泰典 久留米大学医学部 血液内科
春木 宏介 獨協医大越谷病院 臨床検査部

《所属・その他変更》(敬称略)

加藤 圭 旧 航空医学実験隊
新 航空機動衛生隊
荒川 敦 旧 順天堂大学医学部 第一病理学講座
新 順天堂大学医学部 人体病理病態学講座
(講座名変更)
近藤 成美 旧 順天堂大学医学部 臨床病理学講座
新 順天堂大学医学部 臨床検査医学講座
(講座名変更)
須田 耕一 旧 順天堂大学医学部 第一病理学講座
新 順天堂大学医学部 人体病理病態学講座
(講座名変更)
高瀬 優 旧 順天堂大学医学部 第一病理学講座
新 順天堂大学医学部 人体病理病態学講座
(講座名変更)
三宅 一徳 旧 順天堂大学医学部 臨床病理学講座
新 順天堂大学医学部 臨床検査医学講座
(講座名変更)
三宅 紀子 旧 順天堂大学医学部 臨床病理学講座
新 順天堂大学医学部 臨床検査医学講座
(講座名変更)

《退会会員》(敬称略)

伊東 盛夫 宗像医師会検診センター(11月27日)

《振興会再入会員》

オリンパス株式会社

《訃報》

鈴木 弘文 先生 協和病院 12月1日 ご逝去
細谷純一郎 先生 細谷内科医院 12月3日 ご逝去
ご冥福をお祈り申し上げます。

【第28回総会報告】

第28回(平成18年度第2回)総会が第53回日本臨床検査医学
会学術集会に合わせて弘前で開催されました。

会場：弘前文化センター 大会議室

日時：平成18年11月8日 13時～13時35分

報告事項

- 平成18年度中間会計が佐藤庶務・会計幹事から報告された。
- 内保連への加盟が認められたこと、保険点数委員会を新設したことが森会長から報告された。
- 各委員会の活動状況が報告された。
情報・出版委員会：石委員長
教育研修委員会：宮地委員長
資格審査・会則改定委員会：佐藤幹事(代行)
渉外委員会：池田委員長
未来ビジョン委員会：〆谷委員長
保険点数委員会：水口委員長
- 第17回春季大会の期日が平成19年6月2日(土)、3日(日)から6月1日(金)、2日(土)に変更されたことが報告された。

審議事項

- 会則の一部を以下のように改訂することが承認されました。
第6章 会議
第24条として 現行
「総会は正会員、名誉会員、有功会員、準会員をもって組織

し、総会議長は会長が行い年1回以上開く。総会の議事は総会のうちの正会員および有功会員の出席者の過半数を以て成立し、また、決定される。ただし、代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。」を

「総会は正会員、名誉会員、有功会員、準会員をもって組織し、総会議長は会長が行い年1回以上開く。総会の議事は正会員および有功会員の1/3以上の出席を以て成立し、また、出席者の過半数の賛成で決定される。ただし、代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。

なお、ファックスおよびメールによる委任状の送付を認めることとする。」

細則

ファックスによる委任状は自署署名があるもののみ有効とする。メールによる委任状の提出は自署署名をしたものをPDFファイル化して添付した場合のみ有効とする。

に改正する。

- 平成19年度予算案(別表)が承認されました。
- 平成19年度行事予定(別項参照)が承認されました。
- 第18回日本臨床検査専門医会春季大会の大会長を神戸大学の熊谷教授にお願いすることが承認されました。
- 平成18年度有功会員として以下の8名の先生が推薦され、承認されました。

川名 林治 先生、高橋 浩 先生、平山 章 先生、
藤巻 道男 先生、松原 藤継 先生、松宮 英視 先生、
水島 淳 先生、吉野 二男 先生

日本臨床検査専門医会 平成19年度予算案

		項目	平成18年度予算	平成19年度予算案
収 入	会 費 入 金	会員会費	6,000,000	5,700,000
		振興会会費	4,500,000	4,800,000
		雑収入	150,000	150,000
		小計①	10,650,000	10,650,000
	そ の 他 入 金	広告収入	800,000	800,000
		教育セミナー参加費	1,000,000	1,000,000
		利息・雑収入	5,000	2,500
		前年度繰越金	15,000,000	15,000,000
		小計②	16,805,000	16,802,500
		A. 収入合計 ①+②		27,455,000
支 出	庶 務 経 費	事務局雑費	400,000	300,000
		通信費(事務局)	200,000	300,000
		人件費	1,800,000	2,000,000
		FAX・電話使用料	70,000	60,000
		会員登録	20,000	15,000
		事務所賃貸料	950,000	950,000
		設備費	300,000	200,000
		小計①	3,740,000	3,825,000
	必 要 経 費	印刷代	2,200,000	2,200,000
		要覧印刷代	400,000	400,000
通信費		1,500,000	1,500,000	
春季大会補助金		500,000	500,000	
振興会補助金		700,000	700,000	
GLM補助金		550,000	700,000	
教育セミナー補助		1,800,000	1,700,000	
会議費		1,200,000	1,000,000	
交通費		300,000	100,000	
原稿料		200,000	200,000	
HP維持費		240,000	300,000	
JCLS会費		50,000	50,000	
WASPALM会費	60,000	60,000		
臨床検査振興協議会	800,000	300,000		
内保連会費	0	100,000		
予備費	250,000	200,000		
小計②	10,750,000	10,010,000		
B. 支出合計 ①+②		14,490,000	13,835,000	
収支決算 A-B		12,965,000	13,617,500	
次年度繰越金		12,965,000	13,617,500	

【講演会報告】

第 28 回日本臨床検査専門医会総会に引き続き、同じ会場で講演会が開催されました。東海大学医学部の宮地勇人教授の司会により、関西医科大学の高橋伯夫 教授を演者に「検査管理医制度について」というテーマでの講演がありました。

会員の関心が高いテーマであり、講演後は白熱した質疑応答および討議が行われました。

【来年度行事予定のお知らせ】

平成 19 年度、日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 19 年

1 月 26 日 第一回常任・全国幹事会(日程が変更になりました)

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

3 月 16 日 第二回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

3 月 17 日 第 66 回 教育セミナー

「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」

開催会場：近畿大学 医学部

4 月 21 日 第 67 回 教育セミナー

「輸血・骨髄検査・免疫電気泳動の実技講習」

開催会場：慶応義塾大学 医学部

5 月 12 日 第 4 回 GLM 教育セミナー

開催会場：都市センターホテル(東京)

5 月 13 日 第 68 回 教育セミナー

「精度管理・検査室 management」

開催会場：昭和大学 医学部

5 月 27 日 第 69 回 教育セミナー

「生化学・一般検査・微生物検査の実技講習」

開催会場：防衛医科大学校

6 月 1～2 日 第 17 回日本臨床検査専門医会春季大会

開催会場：旭川グランドホテル

大会長：旭川医科大学 伊藤喜久 教授

6 月 2 日 第三回常任・第二回全国幹事会

第 29 回日本臨床検査専門医会総会

開催会場：旭川グランドホテル

6 月 22 日 第四回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

7 月 20 日 第 25 回日本臨床検査専門医会振興会セミナー

開催会場：東京ガーデンパレス(東京)

11 月 21 日 第五回常任・第三回全国幹事会

第 30 回日本臨床検査専門医会総会

日本臨床検査専門医会講演会

開催会場：大阪市公会堂

12 月 14 日 第六回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

注)第二回常任幹事会以降の幹事会は、日本臨床検査医学会事務所が移転する予定のため、会場が変更になる可能性があります。

【会費納入について】

今年度会費の振り込みをしていない先生は、至急お振込ください。

会費の振り込み状況の確認は事務局まで E-mail あるいは FAX でお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなっていない定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなってい

ます。

住所、所属の変更および E-mail address の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。

所属、住所変更は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し FAX 送信していただくか、もしくは E-mail でご連絡ください。

【平成 18 年度第五回常任・第三回全国幹事会議事録】

開催日時：平成 18 年 11 月 8 日(水)、11 時 30 分～13 時

場 所：弘前文化センター 第 5 会議室

参加幹事：森三樹雄、熊谷俊一、水口國雄、池田 齊、
石和 久、ゞ谷直人、宮地勇人、今福裕司、
諏訪部章、橋本琢磨、深津俊明、保嶋 実、
松野一彦、渡辺清明、佐藤尚武

参加監事：玉井誠一 (出席 16 名)

欠 席：橋詰直孝、市原清志、一山 智、大谷慎一、
岡部英俊、尾崎由基男、小野順子、北村 聖、
小出典男、犀川哲典、館田一博、濱崎直孝、
藤田直久、村上正巳、渡辺伸一郎 (欠席 15 名)

(敬称略)

森三樹雄会長の司会により、議事録署名人に、保嶋実幹事、松野一彦幹事を指名して議事に入った。

報告事項

1. 平成 18 年度中間会計報告 資料 1(佐藤庶務・会計幹事)

資料提示の上で、10 月 30 日時点での平成 18 年度予算の執行状況および収支について説明があった。

2. 各種委員会報告

①未来ビジョン検討委員会(ゞ谷委員長)

明年の旭川での春季大会にて、現在活動している 5 ワーキンググループの活動内容および成果を報告する予定である。

②資格審査・会則改定委員会(佐藤庶務・会計幹事)

橋詰委員長欠席のため、佐藤幹事から会則第 6 章 第 24 条の改正案を作成したことが報告された。審議事項参照。

③情報・出版委員会(石委員長)

LabCP、JACLaP NEWS、JACLaP WIRE は何れも順調に発刊されている。JACLaP WIRE の編集主幹が来年から今福先生(現在は満田先生)に代わる。

④教育研修委員会(宮地委員長)

教育セミナーに関しては、担当校の負担が大きく、このままでは継続困難との意見が出ている。また関西での教育セミナー開催をどうするかという問題もある。教育セミナーはどうあるべきか、幹事会で今後の方向性を決めてもらいたい。

・認定試験対策として、付け焼き刃の実技実習を行うことは意味がない。準備の負担が大きい実技実習は止めるべきである。

(玉井監事)

・教育セミナーでの実技実習は、認定試験における実技試験の対策として行われていると思うが、実技試験を実施していることは専門医認定機構でも高く評価されている。(渡辺幹事)

・実技試験を行うことは結構である。ただその対策としてセミナーで短時間の実技を行うことはほとんど意味がない。(玉井監事)

・自分としても教育セミナーで実技実習を行うことはそろそろ止めても良いと考えている。(森会長)

・自分の経験でも自施設での実技研修が試験には役立つ。セミナーの実習はそれ程役立つとは思わない。しかし自施設で研修できない内容に対する対策も考えないといけない。(深津幹事)

・以前にも提案したが、地域ごとに実技研修が実施できるようなシステムを構築すべきである。(玉井監事)

・自分の経験では、あまり得意でない分野について何を学べばよいかを知ることが出来たという点では、教育セミナーの受講は有意義だったと思う。(松野幹事)

・講義形式で研修すべ実技内容や習得法を示してやればよい。

実習として実技を行う必要はない。(玉井監事)

- ・近年担当校が受講者に配布している教材資料はかなり充実している。これを整備して受験者に利用してもらえば、実技実習を廃止してもかなりの部分は自習で補完できると思う。(佐藤幹事)
- ・教育セミナーは受験対策よりも、検査専門医の知識・技量の up to date を図るために行うのが、本来の姿ではないか。(メ谷幹事、諏訪部幹事)
- ・GLM(教育)セミナーはそれを目的として行っている。今後更に充実を図る必要があるかもしれない。(宮地委員長)
- ・教育セミナーの受講自体が暫定措置として受験資格に組み込まれている。これも筋論から言えば不合理で、暫定措置を何時止めるかもそろそろ日本臨床検査医学会に検討してもらいたい。(佐藤幹事)
- ・議論はつきないが時間もあるので、そろそろこの話題は終わりにしたい。この後教育研修委員会が開催されるので、今回の議論をふまえて、そこで今後のセミナーについて検討して欲しい。(森会長)
- ・方向性がある程度示されたと思うので、これをもとに本日の教育研修委員会で議論を進め、方針を決める。(宮地委員長)
- ・セミナーや試験に関する要望を専門医会として取り纏め、臨床検査専門医審議会に諮って欲しい。(渡辺幹事)

⑤ 渉外委員会(池田委員長)

第 24 回日本臨床検査専門医会振興会セミナーが、「平成 18 年度診療報酬改定」をテーマとして 7 月 21 日(金)に東京ガーデンパレスで開催された。約 80 名の参加者があり、意義深い講演と討議が行われた。

来年の振興会セミナーは平成 19 年 7 月 20 日(金)に同じく東京ガーデンパレスで開催する予定である。テーマは未定で、今後決定する。

⑥ 保険点数委員会

日本臨床検査専門医会の内保連への加盟が認められたことに伴い、保険点数委員会を設置した。委員長は水口副会長にお願いした。

第 100 回内保連例会が先月開催され、私と当会選出の水口、佐藤両委員とが出席した。厚労省保険局医療課 原課長による講演「今後の保険医療政策について」を聴き、大まかな方針を知ることが出来た。(森会長)

第 100 回内保連例会にて、平成 20 年の診療報酬改定に向けての活動予定が示された。4 月上旬に加盟各団体から希望書を提出することになっており、予定が少し前倒しになっている。日本臨床検査医学会の委員会と連携して活動していきたい。(水口委員長)

3. その他

① 第 17 回日本臨床検査専門医会春季大会の期日変更(佐藤庶務・会計幹事)

第 17 回春季大会は明年の 6 月 2、3 日開催の予定であったが、担当する旭川医大から 6 月 1、2 日に変更する旨連絡があった。

② 臨床検査振興協議会 臨時理事会報告

先月臨時理事会が開催され、森会長の代理で出席した。医療政策委員会に委員を追加推薦するよう依頼があった。理事会の概要は協議会の会長である渡辺清明幹事に説明をお願いする。(佐藤庶務・会計幹事)

日本臨床検査技師会がオブザーバーとして参加すること、厚労省と定期的に勉強会を開催すること、の 2 点が決まった。これに伴い医療政策委員会を拡大することになった。(渡辺幹事)

審議事項

1. 平成 19 年度予算について 資料 2(佐藤庶務・会計幹事)

平成 18 年度予算の執行状況を考慮し、平成 19 年度の予算案を提示資料の通り作成した。審議をお願いしたい。

- ・予算案は承認された。
2. 平成 19 年度活動予定について 資料 3(佐藤庶務・会計幹事)
平成 19 年度の行事予定を提示資料の通り作成した。審議をお願いしたい。
- ・1 月 19 日の第 1 回幹事会は 15~17 時に変更して欲しい。(諏訪部幹事)
 - ・第 1 回幹事会は 15~17 時に変更し、また 11 月 21 日の幹事会、総会、講演会は時間を少し繰り上げるようになった。
3. 会則(第 24 条)の改定について 資料 4(佐藤庶務・会計幹事)
橋詰委員長(欠席)から会則第 6 章第 24 条の改正案が提示資料の通り提案されている。審議をお願いしたい。
- ・表現について若干の質疑があったが、改正案は承認された。
4. 第 18 回日本臨床検査専門医会春季大会について(森会長)
第 18 回春季大会の大会長は関西地区の先生にお願いしたい。自分としては熊谷先生を推薦したいと思うが、審議をお願いしたい。
- ・受諾の方向で考えたい。(熊谷副会長)
 - ・熊谷副会長に大会長をお願いすることが承認された。
5. 平成 18 年度有功会員について 資料 5(森会長)
今年度の有功会員として、提示資料にある 80 歳以上の 8 名の先生を推薦した。常任幹事会では既に承認されているが、全国幹事を含めた本会で、最終的な審議をお願いしたい。
- ・提案通り有功会員に推薦することが承認された。
6. 臨床検査振興協議会 医療政策委員会への委員推薦について(森会長)
報告事項 その他の②にある通り、医療政策委員会の拡大に伴い、当会からも委員を追加推薦することになった。北里大学の狩野有作先生と佐藤庶務・会計幹事を推薦したいと思うが、審議をお願いしたい。
- ・提案通り 2 名の委員を追加することが承認された。
7. 臨床検査ガイドラインハンドブックについて(佐藤庶務・会計幹事)
臨床検査振興協議会作成のハンドブックが専門医会事務所に 70 部程度残っている。この利用についてご意見を頂きたい。良い使い道があれば、積極的に利用してもらいたい。
※幹事会では特に意見・提案は出なかったが、後日臨床検査振興協議会には多数の問い合わせがあるため、利用させて欲しいと渡辺幹事から申し出があった。
8. その他
- ①今年度の会費未納者がまだ 2 割ほどいる。年内にもう一度督促状を発送するかどうかご意見を伺いたい。(佐藤庶務・会計幹事)
- ・督促状を発送してください。(森会長)
 - ・コンビニエンス・ストアでも支払いできるようにしてもらいたい。(メ谷幹事)
 - ・その方向で検討する。(佐藤庶務・会計幹事)
 - ・長期滞納者はさかのぼって督促するのか。(メ谷幹事)
 - ・督促はしているが、支払ってくれない。一度退会し、未払い期間を挿んで再入会となっている場合もある。(佐藤庶務・会計幹事)
 - ・長期滞納者を自動的に退会させることは出来ないのか。(メ谷幹事)
 - ・退会させるのは難しい。(森会長、渡辺幹事)
 - ・2 年連続して会費未払いだった場合は刊行物を送らないことにする。(森会長)
- ②教授、助教授名簿について(森会長)
専門医会のホームページに臨床検査医学関連の講座および臨床検査部の教授、助教授名簿を掲載していたが、個人情報保護の問題もあり、掲載を中止する。

以上

日本臨床検査専門医会

会 長：森三樹雄、副会長：熊谷俊一、水口國雄

常任幹事：

庶務・会計 佐藤尚武、情報・出版委員長 石 和久、教育研修委員長 宮地勇人、会員資格審査委員長 橋詰直孝、渉外委員長 池田 斉、
未来ビジョン検討委員長 〆谷直人、保険点数委員長 水口國雄

全国幹事：市原清志、一山 智、今福裕司、大谷慎一、岡部英俊、尾崎由基男、小野順子、北村 聖、小出典男、犀川哲典、諏訪部章、館田一博、
橋本琢磨、深津俊明、藤田直久、松野一彦、村上正巳、保嶋 実、渡辺清明、渡辺伸一郎

監 事：玉井誠一、濱崎直孝

情報・出版委員会

委員長 石 和久、会誌編集主幹 石 和久、要覧編集主幹 佐藤尚武、会報編集主幹 大谷慎一、情報部門主幹 満田年宏
近藤成美 今福裕司

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1-19 アルベルゴ御茶ノ水 505

TEL・FAX：03-3293-5221 E-mail：senmon-i@jacpl.org

書 評

Utz P. Merten & Marc L. Merten

Laboratoriums-medizin – Basis aller Diagnostik

「検査医学—あらゆる診断学の基礎」

HuffmannBusiness 出版社 (<http://www.humannbusiness.de>),
2006

本書は、35 年余に亘り親交を暖めてきたドイツの検査専門医である U.P. メルテン博士とその子息により共同執筆され、実質的にはドイツ臨床検査医学の 50 年史である。1956 年にドイツ検査専門医会が発足し、翌 1957 年にドイツ検査医学会が発足し、丁度 50 周年を迎えた。日本臨床検査医学会(前・日本臨床病理学会)が歩んできた 50 年の歴史と重ね合わせると多くの共通点があり、極めて興味深い。筆者自身も、ドイツ検査医学会の名誉会員に推挙されて多くの検査専門医と交流してきたが、それでもこれほど共通した苦難と発展の事実を知らなかった。ドイツの検査医学に関連した主たる団体として、設立順位からドイツ検査専門医組合(AL-DGLD)、精度保証・標準規格協会(INSTAND)、ドイツ検査専門医会(BDL)、ドイツ検査医学会(BDL)、ドイツ臨床化学会(DGKC)、ドイツ臨床化学・検査医学会(DGKL、2000 年から検査医学会と臨床化学会が合併)などの歴史とその背景、さらに欧州専門医共同組合(UEMS)、世界病理学・検査医学会連合(WASPaLM)における国際的活動についても言及している。冒頭に「診断学と検査医学の歴史」、そして最後に「21 世紀の検査医学」についてまとめてあり、極めて示唆に富む単行本に仕上がっている。

(国際臨床病理センター・自治医科大学名誉教授・名誉会員
河合 忠)

僕の歩く道

臨床検査専門医試験を受けたのは、94 年の暑い夏の京都であった。それから、もう 12 年になるが、私は臨床検査専門医として何かをやってきたのだろうか？実は、今年、何年ぶりに臨床検査医学会に参加をした。そこで、編集主幹の大谷先生と久しぶりにお会いした。久しぶりといっても、以前、臨床検査医学会の仕事で会っていたわけではなく、出張病院で一時期、一緒に仕事をしていたということである。そんな再会の中、本原稿を依頼されたが、臨床検査専門医としての実力不足の私が何を書けばよいのか困って、結局、自分を振り返ってみることにした。

私が東京医大臨床検査医学講座に入局したのは、決して検

査専門医になろうと思ったからではなく、血友病との出会いであった。学生時代、児童研究会に入っており、子供達をキャンプに連れて行くなどの活動をしていた。当時の臨床病理学教室の先輩から、血友病の子供達のキャンプをやるので協力して欲しいと頼まれた。これがなかったら、この道に入ることはなかったと思う。教室の先生方の人柄の良さや面倒見の良さ、「臨床検査はたとえどんな科に行っても関係するブロードな分野なんだ」という言葉にのって入局した。当時は今のような臨床研修システムはなかったが、臨床現場を重要視していた医局長は救命救急センターを含む自由な内科研修の場を与えてくれた。内科研修終了後、臨床検査医学講座に戻ったが、当医局の歴史的背景から、血友病をはじめとする凝固異常症の診療、凝固因子製剤による HIV 感染者の診療が主たる業務となった。もちろん、輸血部や凝固検査にかかわる研修は行ったが、トータルに検査室マネジメントに従事するようなことはなかった。その後、自らの研究のための米国留学があり、帰国してからは、急増する東京都の HIV 感染者の診療にかまけ、臨床検査専門医としての役割をおろそかにしていた。意識が変わったのは、臨床検査技師の 2 級試験や臨床検査専門医試験の実施校のスタッフとして参加させてもらった時である。自分は、こんなに検査のことをわかっていないのかということを感じ、臨床検査専門医を名にかけていることに恥ずかしさをおぼえた。自分からどんどん検査室に介入していかなければいけないと感じた。そんな折、検査室の大変革期が訪れた。検査室外部委託問題である。当院では技師長の強いリーダーシップにより、様々な改革を行い院内検査室を維持しているが、その時、技師長から検査専門医として臨床からのニーズを技師達にアピールして欲しいと頼まれた。数あるコメディカルの中でも「臨床」という冠をつけた臨床検査技師こそ、臨床現場と強い関わりを持っていく意識が必要ではないか、「積極的に臨床現場へ出て行こう」というキャンペーンを行うことが自分の役割として相応しいと感じた。たまたま、AED(自動体外式除細動器)による救急蘇生の院内導入のための運用委員長としても活動していた私は、インストラクターとして、多くの臨床検査技師と関わることもできた。当院のコメディカルの中では、臨床検査技師が最も多く AED の講習を受けており、その意識は確実に高まっている。今後、臨床現場のニーズを肌で感じられるように、救命救急センターでの研修などを企画していきたいと考えている。

恥づかしながら、今年初めて臨床検査専門医会春季大会に参加した。そこで横断的診療支援の重要性や臨床検査科学者

という概念など、多くの先生方の熱い気持ちに触れることができた。今年度、卒後臨床研修のローテーションとして1年目の研修医が2名当科を選択してくれたが、「臨床医として検査室と仲良くなること」の意義を以前よりも伝えることができたように思う。臨床検査専門医として「僕の歩く道」は、まだはっきりしていない。遅ればせながら、これから多くを学んで行きたいと思っている。

(東京医科大学臨床検査医学講座 天野景裕)

【会員の声】

今年(2006年)の思い出

私の若かりし頃(40年前)、三種の神器といえば、「テレビ、冷蔵庫、洗濯機」だったと記憶しているが、現代のそれは「カーナビ、携帯電話、パソコン」にとってかわられており、それに異論を唱える人はほとんどいないと思う。私も一部の機能(ほとんどがメールとインターネット、スライド作成)しか使えないものの、携帯とパソコンは一応公的および私的にも使用している。そして遅すぎた感が強いが、最近カーナビのすごさを実感させられた。それは大学時代からの親友を6年ぶりに東京世田谷の某研究センターに訪ねた際、懐かしい味の話から、中央区(晴海埠頭)の高層ビル内にある料理屋で彼がごちそうしてくれることになった。彼は颯爽とシルバーメタリック(フォルクスワーゲン)の新車に乗り込んだ。学生時代を含めて、30年以上彼が車を運転するところを見たこともないし、お世辞にも運動神経がいいとはいいがたい。しかも降り始めた雨の中、当然私は危険な香りに全身を硬直させながら言葉をなくして身構えた。しかし友人はゆっくりハンドルを切りながら、「ナビがあれば僕でも東京を案内出来るよ。」と言い放った。それから雨で渋滞の中、車はゆっくりとナビの指示どおり、世田谷から途中皇居横を通り、2時間後晴海のトリトンビル地下駐車場へ無事すべりこんだ。もちろん30年ぶりに東京で食べた、元祖浜松のお好み焼きフルコースと生ビールにも懐かしく、美味しく感激した。その翌日は日本臨床検査専門医会主催の第65回教育セミナー(会場：防衛医科大学)であり、生化学・一般検査・微生物検査の実技講習を滞りなく受け、モノレールから夕陽にはえる富士山にまたまた感動しつつ羽田より帰路についた。

話題が変わり話が多少前後するが、一人病理医として私の勤務する病院でも、2年程前にラボ導入を含めた検査部門の改善問題が院内の議題に上がり、管理者からの人員の削減や正職員退職後のパート化などに対して、技師長さんを先頭に一丸となって、経費節減、早出勤務による検体収集、および臨床医支援、医師、看護師その他の職種に対するアンケート調査、複数の検査領域に通じた検査技師育成等々種々の検査室としての対策がとられている。これら当院で行ってきた検査の改善策のほとんどは、今年(2006年)の第3回GLM教育セミナー(都市センターホテル)で報告された「病院内臨床検査室の満たすべき要件(案)」(臨床病理 54巻1号、79~82)に書かれてある内容であった。その内容は、Balanced Scorecard という手法を用いて、検査室の進むべき方向を模索するものであり、中規模以上の病院検査室の将来を考える上でナビゲーターとしての必要条件を備えていると考える次第である。しかし学会の講演、実習を受けてからしかその事に気づかない検査長たる自分の不勉強、不甲斐なさを恥じ入るのみであった。

こんなどうしようもない私でも仲間に入れて一緒に語らい、悩み、笑ってくれる技師さんに感謝し、ともに悩み、苦しむ

ながら現在を生きぬき、頑張り続けることで、我々検査室の将来が開けてくると信じたい。私自身、「人生は自己満足である。」と思っているし、人生どうにもならないことの方が多いいのも事実である。しかし「人は何のために働くのか?、生き甲斐とは?」とたずねられて言葉に窮し、人は一人で生きているのではなく、多くの人々と関わり、関心を持ち合いつつ生かされていることに気づかされるのが最近多くなった。多くの人々との関わりの中で悩みそして苦しむことが生き続けることの証なのであろう。我々はまだまだこれから生き続けるのだが、美しい四季のうつろいを見せる日本、「冬来たりなば春遠からじ。」で、近い将来の目標として来年春の桜花を楽しみにみんなで生きてゆこうと考えている。

(熊本中央病院検査科 北岡光彦)

【編集後記】

冬を向かえ寒い日が続いており、体調を管理するのが大変であります。風邪の方もいらっしやいましょう。

先日の12月8日に大学病院の外来でたぶん、最初で最後であろうと考えられる症例を経験した。その日の最後の患者さんで、初老の男性で夫婦で来院された。今朝38.5℃の発熱と血尿?を主訴に外来を受診された。前日には他科を受診され帰宅している。昨夜から39℃の発熱、咳・喀痰なし、咽頭痛、筋肉痛もない。血尿との話であるが、よく聞くと濃縮尿で濃い色の印象であった。咽頭は発赤しているが、聴診上はきれいである。風邪であろうが、念のため尿検査はしておきましょうと話をし、尿検査を依頼した。30分ぐらい経ち結果をみてビックリ、尿蛋白(3+)、尿糖(3+)、尿潜血(3+)で尿沈渣では赤血球10-19、白血球1-4、円柱は顆粒(3+)、硝子(1+)、上皮(1+)と予想しない結果であった。実際に尿検体を外来検査室まで見ていった。血尿といっても濃い感じの尿であり混濁もない。腎障害?尿管障害?血糖は?採血しないと帰せない状況となり、血算と生化学検査、CRP、HbA1cなどを更に追加した。今日は時間がかかるなど思いながら、外来のブースで他の仕事をしつつ結果がでるのを待っていた。約一時間後にPHSが鳴った。パニック値で免疫化学検査室の主任技師さんからのコールであった。CK 6070です。LDH 893 え?何?他のデータをみるとWBC 10200、CRP 47630と想像しない結果であった。横紋筋融解症?こんなに炎症が強いはずがない。血糖は178、HbA1c6.0であり大した事はない。しかし、AST 414、ALT 157 肝機能障害。結果として、ものすごい炎症反応であり尋常なデータではない。夕方16時を過ぎた状況となり、帰せない、入院が必要である。膠原病感染内科のチーフに連絡をとり、引き継ぐことにした。その間もフォーカスはどこ?病名は?ヒントはないか?再度、初診時の紙をもう一度確認すると12/5温泉の小さな文字を確認。確かに診察時に目には入っていたが、温泉には誰でも行くし、帰ってきてから疲れて風邪もひく人はごまんといる。しかし、温泉はキーワードだ。膠原病感染内科のチーフにレジオネラかな?と半信半疑で言葉を掛けて引き継いだ。一時間後、尿中レジオネラ抗原陽性の知らせが細菌検査室の技師さんから連絡が入った。私はオーダはしていないが、外来で診ていたので連絡した旨。オーダ医に連絡するように指示した。最終的には呼吸器内科にレジオネラ症で緊急入院となった。これぞ、検査の醍醐味、大学病院の検査部である。今年の編集後記はこのあたりで終わりたいと思う。

(編集主幹 北里大学医学部臨床検査診断学 大谷慎一)